平成２７年度

学　校　評　価　報　告　書

加賀市立三谷小学校

学校教育目標　「自ら学び、心豊かでたくましく、未来を切り拓く三谷っ子の育成」

・めざす子ども像　みずから学び、自分の言葉で表現する子　たくましい体を持つ子　にっこにこ笑顔で、思いやりのある子　こきょうを大切にする子

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現　状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	判定結果	成果と課題	対　策
①教育課程・学習指導	主体的な学習態度を育て、言語活動の充実を図る。基礎基本的な学力の定着と、活用力（思考力・判断力・表現力）の向上に努める。	学力調査の結果の分析をもとに、児童に必要な力は何かを考察し、授業改善に活かす。「家庭学習」「はげみ学習」の充実を図る。	教務主任	言語活動の充実を軸として、活用力を高める授業づくりを目指している。「家庭学習」や「はげみ学習」に対する基本的な態度は確立しているが、学力の定着には個人差がある。	【成果指標】学年相当の知識・技能が身についている。【努力指標】活用力向上に向け，指導法の工夫改善に取り組むことができた。	国語・算数の評価テストの全ての観点で，80%に達した児童の割合が A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	C・Dの場合は，授業・はげみ学習・家庭学習の内容やそのあり方を再検討する。	単元毎に行う評価テスト等で行う。学期毎に教員対象に調査を実施する。	B	「授業改善」や「家庭学習における自学の奨励」「はげみの時間の充実」によって多くの児童が学年相当の知識や技能を身につけることができた。まだ不十分な児童については、個別の支援を行い、成果も上がりつつある。しかし、まだまだ十分とは言えないので、授業改善も引き続き行うとともに、個別の支援も引き続き行う必要がある。	ねらいを明らかにした授業づくりを継続して行う。また、学習内容の定着が不十分な児童には、引き続き個別の学習支援を行う。今年度の反省を活かし、活用力の向上を図っていく。
	「学び合い高め合う国語科の授業」を中心として、児童の確かな言葉の力を育成する。	国語科における言語活動を充実させるとともに、課題や発問、学習形態を工夫して、学び合う授業を実践する。	研究主任	国語科においては、つけたい力を明確にした単元を貫く言語活動を設定することができるようになった。しかし、評価の工夫や表現する力（特に書く力）の個人差など、まだまだ多くの課題も残る。	【努力指標】確かな言葉の力の育成に向け、学び合い高め合う国語科の授業を実践し、研究実践を通して指導法の工夫・改善に取り組むことができる。	国語科において、学び合い高め合う授業をめざし、指導法の工夫・改善に取り組むことができた教員の割合が、 A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	CDの場合は、研究先進校の取り組みなどをもとに、指導法の改善を行う。	7・12月に教職員対象のアンケートを実施する。	A	どの学年においても、ねらいを明確にした学び合いの場を意図的に設定した国語科の授業を実践できるようになった。また、言語活動検討会や言語活動交流会等の研修会を通して、国語科における単元を貫く言語活動の充実を図り、実践した単元の学習計画や教師のモデル、児童の言語活動を蓄積することができた。学び合いの場における教師の関わり方や振り返り、学習評価の工夫が今後の課題となった。	今年度の課題となった、学び合いの場における教師の関わり方や振り返り、学習評価の工夫を、来年度の研究内容の柱として学校研究に組み入れていく。
	自分の好きな読み物だけでなく、多分野にわたる本や良書を選んで、進んで読書をする児童を育成する。	「朝の読書」や「読書ノート」の取り組みを継続する。必読図書や並行読書の本を児童の身近に置き、読むことを勧める。	図書館指導担当	昨年は、必読図書を10冊ずつのまとまりにして取り組ませる方法をとったが、冊数が少ないことと一人一人の力に合わない本が含まれていたことが原因で、10冊を読破することが難しい児童がいた。	【成果指標】必読図書の中で、学年に応じて目標冊数を決め、目標を達成することができた。	学年の目標を達成できた児童の割合が A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D70%未満	CDの場合は、取り組み内容を再検討する。	学期ごとに読書状況を把握する。	A	必読図書を読むことについては、担任の働きかけがあり、どの学年も各学期の目標をほぼ達成することができた。「朝の読書」や「読書ノート」の取り組みは、定着しつつある。	「おすすめの本」カードを書く活動が児童の選書に役たたせるための工夫をする。
②生徒指導	縦割り集団活動を推進し、コミュニケーション力を中心とした好ましい人間関係を育成する。	学校生活の様々な場面で行う縦割り活動では、あいさつや正しい言葉遣いを大切にし、良好な人間関係を育成する。	生徒指導主事	学校では気持ちのよい挨拶や言葉遣いに気をつけ、進んで挨拶をする児童が増えて、縦割りでの温かい交流がある。しかし、人間関係の固定化が見られる。そこでコミュニケーション力を高め、自ら良い人間関係を作ろうとする児童の意識を育てたい。	【成果指標】児童が場に応じた挨拶をし、正しい言葉遣いができる。	場に応じた挨拶や言葉遣いができる児童の割合が A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	CDの場合は、取り組み内容を再検討する。	7・12月に児童を対象にアンケートを実施する。	A	あいさつ運動や集団登校、縦割り活動を通して、良い人間関係が育まれている。高学年では自覚を持って大きな声で気持ちの良い挨拶や場に応じた正しい言葉づかいをしている児童が多い。共に活動していることから、低学年も場に応じた挨拶や正しい言葉遣いができるようになってきた。	あいさつ運動については継続して行っていく。掃除や縦割り交流会等の縦割り活動を通して、コミュニケーション力を高め、良好な人間関係づくりを進めていく。
	集団の一員としての自覚と責任を持ち、進んで明るく楽しい学校生活を送ろうとする心豊かな児童を育成する。	Q－U、アンケート、児童理解の会などを活用し、生徒指導の3機能を生かした授業をして児童の自己肯定感を高める取り組みをする。	生徒指導主事	穏やかに楽しく学校生活を送っている児童が大多数であるが、ちょっとしたことでも臍してしまう面が見られる。生徒指導の3機能をいかした授業づくりをすることで、自己決定をし、自己存在感のある、共感的な人間関係の中で明るく学校生活を送ろうとする子を育てたい。	【成果指標】生徒指導の3機能を生かした授業づくりができる。	生徒指導の3機能を生かした授業づくりができた教員の割合が A　90%以上　C　70%以上 B　80%以上　D　70%未満	CDの場合は、取り組み内容を再検討する。	7・12月に教職員を対象にアンケートを実施する。	A	生徒指導の3機能を生かした授業実践の交流の実施や、学校研究の「学び合い」を通して良質な学習集団づくりができた。また全校で「いい所見つけ」に取り組むなど、自己肯定感を高める実践を全校で実施できた。	3機能を生かした授業づくりを実践するため、「学び合い」をより質の高いものにしていく教師の関わり方について学校研究と連携して推進していく。
③進路指導・キャリア教育	学校生活の様々な場で、よりよい人間関係を築きながら自分の持ち味を発揮し、目標に向かって自己を高めようとする子どもを育てる。	教育活動全般を通して、地域のゲストティーチャーの生き方や役割を果たすための苦労や工夫を学ぶ。	キャリア教育担当	各教科や特活、道徳、学校行事等を通して、地域の方をゲストティーチャーとしてお迎えし、いろいろな苦労や工夫、努力等の体験を見聞きすることで生き方を学び、目標に向かって自己を高めようとする子を育てたい。	【努力指標】様々な教育活動の場で、地域の方々をゲストティチャーとしてお招きし、活動に活かすことができる。	キャリア教育の視点をもって、ゲストティーチャーを活かした活動が A　各学期に1回以上,年間4回以上 B　年間を通して3回 C　年間を通して2回 D　年間を通して1回	CDの場合は、取り組み内容を再検討する。	7・12月に教職員を対象にアンケート調査を実施。	B	期間を限定することによって、全学年でゲストティーチャーを迎えた授業を実施することができた。今年度作成したキャリア教育の年間指導計画を活用して1年を通じて計画的に授業を設定していきたい。	地域の身近な人材を活用して、キャリア教育の年間指導計画に基づいて、計画的に進めていく。
④安全管理	危機管理意識の高める訓練を通して，教職員の意識を高め、児童が安全で，安心した学校生活を送れるようにする。	年３回の避難訓練の実施と職員を対象にした訓練の充実を図る。	教　頭	学期ごとに火災・不審者・地震対応の避難訓練を実施しているが，教職員や児童の意識を高めるため，実践的な訓練も必要である。	【成果指標】緊急時の対応マニュアルに従って、主体的に児童・教職員が行動できる。	避難訓練時に、教職員、児童が適切に行動できたと感じる教職員、児童が A:90%以上　B:80%以上 C:70%以上　D:70%未満	CDの場合は、指導計画や内容を再検討する。	実施後教職員にアンケートを実施する。外部の訓練協力者に指導を受ける。	A	火災訓練、地震時の避難訓練、不審者対策訓練共に俊敏に避難ができた。また職員対象の訓練も実施できた。今年度は地区の防災訓練にも参加して、全保護者や地域の方の協力を得て充実した訓練ができた。	職員を対象に、危機管理についての研修も実施して、危機管理意識をより一層高め、非常時に適切な対応がとれるようにしていく。。
	校舎内外の安全点検を実施し，施設設備の改善を行い、児童が安全で，安心した学校生活を送れるようにする。	毎月管理場所の安全点検を行い、全教職員が危険箇所の早期発見に努め、安全管理を徹底する。	教　頭	毎月管理場所の点検は，実施しているが，校舎の老朽化に伴い，日常的に不備な箇所の修繕や安全確保が必要である。	【成果指標】定期的な管理場所の安全点検を通して日常的に不備な箇所の修繕・安全確保に努める。	安全確保に努めている教職員が A　90%以上　C　70%以上 B　80%以上　D　70%未満	CDの場合は、点検内容や意識づけに向けて再検討する。	職員アンケートおよび安全点検表でチェックする。	A	計画的に安全点検を実施しただけでなく、各担当場所に関わらず、気がついたときにはすぐ報告し、改善することができた。	さらに日常的に不備な箇所の修繕・安全確保に努めていく。
⑤保健管理	児童の健康の保持増進に向けた運動の習慣化を図り、バランスの良い体力の向上を目指す。今年度は、特に柔軟性の向上を図る。	体育科の各運動領域において体ほぐしの運動を意図的に位置づけ、スポチャレや健康委員会主催のスポーツ企画など、年間を通して児童の運動機会を確保する取り組みを行う。	体育担当	全体的に運動が好きな児童は多いが、運動が習慣化している児童とそうではない児童の二極化傾向は依然見られる。また、H26年度の体力テストの結果から、全体的に長座体前屈に見られる柔軟性が劣っており、体力のバランスが悪い傾向にある。	【成果指導】年間2回体力テストを実施し、2回目の体力テストおいて、各体力要素48項目中38項目(8割)以上H26年度の県平均記録の突破を目指す。	10月の体力テストにおいて、各体力要素全48項目中、 H26年度県平均記録を突破した項目の割合が A　80%以上　B　70%以上 C　60%以上　D　60%未満	CDの場合は、取り組み内容を再検討する。	5月と10月に体力テストを実施する。	A	2回目の体力テストにおいて、80%以上の項目でH27年度の県の平均記録を突破することができた。体育科を中心とした日々の取り組みが児童一人一人の体力向上に確実に繋がっている。	柔軟性がやや弱いので授業の中で柔軟性を高める運動を積極的に取り入れていく。
	学校での生活を楽しく過ごし、心身の健康に関心をもち、友人との関わりで自他の心身を大切にする。	電子メディアと上手に付き合うことができる児童を増やす。	養護教諭	春の視力検査の結果でも、0．9以下の児童の割合が3割を超えていた。さらにその中の半数以上がが昨年度よりも視力が下がっていた。その一因として電子メディアを使用する時間が長い児童が多いことが考えられる。	【成果指標】児童がノーメディアデーを決め、決めたことを実行できる。	ノーメディアデーを実行できた児童の割合 A　80%以上　B　70%以上 C　60%以上　D　60%未満	CDの場合は、取り組み内容を再検討する。	学校保健委員会で電子メディアとの付き合い方について学習する。（7月・11月に児童アンケートを実	A	3学期中に全校児童がノーメディアデーを期間から1日設定し、実行することができた。	ノーメディアデーについては来年度も継続して実施していく。電子メディアと視力の関係については今後、保護者と連携し、学習する機会を設けて取り組んでいく。
⑥特別支援教育	校内の支援体制を確立し、児童の特性理解を深め、具体的な支援を行うことによって個を伸ばす。	校内委員会を中心に、研修会の企画、支援体制の充実、児童の特性に寄り添った支援方法の共有に努める。	特別支援教育ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	校内委員会や児童理解の会で共通理解を図り、授業づくりの工夫や児童の支援に努めている。進級したそれぞれの学年で、さらなる具体的な支援を考え、体制を確立する必要がある。	【努力目標】職員での共通理解を深め，具体的な指導の工夫やよりよい支援を行うことができる。	個に応じた指導支援ができたと思える教職員の割合が A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	C，Dの場合は、具体的な取組を見直す。	7・12月に教職員を対象にアンケート調査を実施する。	A	専門相談員の助言をもとに校内委員会を開き、職員の共通理解ができた。　校内委員会の開催を年間計画に位置付け、定期的に行えた。専門相談員の助言を活かし、個に応じた支援の在り方について考えることができた。	専門相談員の指導を受け、保護者や教員との連携を深め、さらによりよい支援の在り方を探り、指導にあたる。
⑦組織運営	学校ビジョン達成に向け、各主任や分掌担当が学校評価計画に基づいて組織的，効率的に取り組む。	各担当の取組みについての進捗状況や内容について，運営委員会等で情報の交流や共通理解，指導助言を行う。	教　頭	ビジョン達成に向け、それぞれの教職員が，取り組んでいるが，今後はさらに計画・実施・評価・改善のサイクルを意識しながら組織的な運営が必要である。	【努力指標】ビジョン達成に向け，情報の交流や組織的・効率的に学校運営に取り組むことができた。	組織的、効率的な学校運営が図られたと思う教職員が A：80%以上　C：60%以上 B：70%以上　D：60%未満	C、Dの場合は、内容や協力体制や組織作りの面から再検討する。	7，12月の教職員を対象にアンケート調査を実施する。	A	運営委員会を開催し、各担当の取り組みの進捗状況や内容について検討することにより、情報の交流や共通理解ができた。	来年度は職員減となるため、組織での協力体制や分掌の効率化を一層進める必要がある。
⑧研修	校内研修に積極的に取り組み、教員の指導力向上に努める。	校内研修会では研究授業・教材研究を行うと共に、講師の招聘やOJTの活用により指導法の改善に努める。	教　頭	国語科を中心とした学校研究を進めているが、様々な研修を受けて学習した内容を全体に還元することを通じて、教員の指導力の向上に努めたい	【努力指標】校内研修会で学んだことや、様々な研修を受けて還元したことが、教員の指導力向上に活かされている。	校内研修会で学んだことや研修したことの還元が、指導力向上に生かされていると思う教員の割合が A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D70%未満	CDの場合は研修会の内容や形式を再検討する。	7・12月の教職員を対象にアンケート調査を実施する。	B	様々な校外研修で学習したことの還元については時間設定が難しかったが、報告などを通して還元してきた。	様々な校外研修で学んできたことの還元できるように校内研修会やOJTの時間を設定をして、研修ができるようにする。
⑨保護者，地域との連携	積極的に学校公開に努め，地域や保護者と連携し，開かれた学校づくりをする。	授業参観・自由参観，ホームページ、学級だよりや学校だより等を通して学校の様子を知らせる。	教　頭	学校だよりなど機会ある毎に学校の様子を家庭・地域に知らせている。育友会活動についても保護者の関心は高く協力的である。	【満足指標】保護者や地域の人が様々な教育活動を理解し満足している。	HPや各種便りで学校の様子がわかると答えた保護者の割合が A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	CDの場合は速やかに改善策を考える。	7・12月の保護者アンケートで調査する。	A	開かれた学校づくりのため授業参観・自由参観，ホームページや学校だより等を通して学校の様子を知ら、保護者も満足している。	これまで通り学校公開や学級だよりの発行、ホームページの更新などに努め、情報を提供していく。
⑩教育環境整備	校舎の環境美化及び整備に努める。学習環境の充実を図る。	清掃の指導や用具の点検を行う。教室内外の教育効果を高める環境を整備する。（掲示物やロッカー、教具の整理整頓）	環境・清掃担当	清掃は人数に対する面積が広いため、効率的に行う必要がある。校内掲示の工夫や教具の整理、整頓を行う必要がある。	【努力指標】効率的な清掃や掲示などにより、より良い環境整備に努める。	環境整備に努めることができたと思える教職員の割合が A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	CDの場合は計画や内容を再検討する。	7・12月の教職員アンケートで調査する。	A	教室内や廊下・階段の掲示場所に、適宜児童作品等を効果的に掲示することができた。清掃に関して児童は一生懸命取り組むことができた。また学校全体の環境整備については児童・職員だけでは限界があり、保護者や地域の協力が必要である。	来年度は児童数も減少するので、効率よく掃除するために、掃除場所の人数配当等について工夫が必要である。また学校全体の環境整備については育友会や教育後援会などと連携し、予算を立てて整備していく。

学校関係者評価	・親子でテレビやゲームをしない日を決める、ノーメディアデーの取り組みは今後も継続していくとよい。 ・ゲストティーチャーの活用は児童に専門的な知識を提供するだけでなく、幅広い交流につながるので続けてほしい。 ・現在不審者等の被害は三谷地区ではないが、児童自身が不審者等に対処できる力をつけてほしい。 ・環境整備については育友会や地域、教育後援会、同窓会と連携して予算などを工夫して整備にあたっていく。